

総会で See You 久しぶり

4月13日土
PM5:00~7:00

狩柳水森西多八服辻
谷本野 川田木部本

潤朋恵 理和義敬
也子司保嘉彦仁一戊
先先先先先先先先
生生生生生生生生生
※他に現職の先生方
〔国校社音体国道理
工学長会樂育語德科
平平平平平昭昭
成成成成成成和和
24282412121026030
年年年年年年年年年
方も数名出席されます
月現月月月月月月月
職平現平平平平昭
平校成職成成成成和
成長30年28副2224252048
年3月長3333333
月月月月月月月月

総会・懇親会に出席予定の先生方



恩師と語ろう あの日 あの時 あの事

雛松

第50号



平成31年3月15日

雛松会

大阪教育大学
附属天王寺小学校
〒545-0053
大阪市阿倍野区松崎町
1丁目2-45
TEL. 06(6621)0123

第37回雛松会総会

懇親会

★平成23年までに卒業の方

日 時 平成31年4月13日土
PM5:00~7:00(PM4:30~受付)

場 所 大阪マリオット都ホテル「茜」
(あべのハルカス 20階)

奮って
ご参加を

〒542-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 TEL 06-6628-6100

■JR天王寺駅・地下鉄天王寺駅・近鉄大阪阿倍野橋駅直結



内 容 ◎議事(挨拶ほか) ◎乾杯 ◎懇親 ◎アトラクション

会 費 7,000円(平成13年までに卒業の方)、3,000円(平成14年~平成23年に卒業の方)

※同封の出欠返信はがきで4月5日までにご返信ください。

お問い合わせやご出欠の返信は雛松会ホームページ上でも受付けております。

<http://www.hinamatsu.com/>

雛松ジュニア会

★平成24年卒~平成31年卒の人

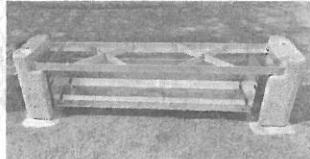
日 時 平成31年3月25日月

AM10:00~12:30

場 所 母校(附属天王寺小学校)

内 容

恩師や友人とのなつかしいお話、運動場でのスポーツ、楽しいお店も開きます。
「ひなまつひろば」で、138期生からの卒業記念品である「かまどベンチ」を用いて、温かいぜんざいのふるまいがあります。



<主な記事>

- | | | |
|------------|----------------------------|------------------------|
| ◆転出された先生方 | ◆附小NOW「働き方改革」で吹く
「新しい風」 | ◆総会・ジュニア会のご案内 |
| ◆名譽会長・会長挨拶 | ◆記念誌「若松」より掲載 | ◆雛松会140周年事業「ひなまつランド」創設 |
| ◆新規会員登録 | ◆恩師からのメッセージ | ◆ひなまつランド |
| ◆年会費納入者一覧 | ◆年会費納入者一覧 | ◆記念誌「若松」より掲載 |

附小 NOW 近況 報告

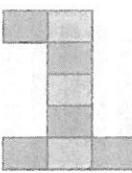
附天小雛松会担当 清水 貴之

『働き方改革』で吹く 『新しい風』

本年度は、「働き方改革」を受け、学校現場で労働時間の削減に取り組んだ1年となりました。具体的には、附属天王寺小学校のよき伝統を受け継ぎ、学校行事の削減・選定に取り組みました。このような現状の中、より教育の質を高めていくために、さまざま

的なアイデアを創り上げていきました。

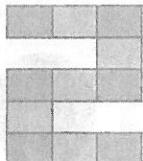
たくさんの苦労がありました。学校と保護者が一体となることで、特色ある取り組み、新しい行事がうまれました。実践内容はたくさんあります。本年度の代表的な3つの取り組みについて説明いたします。



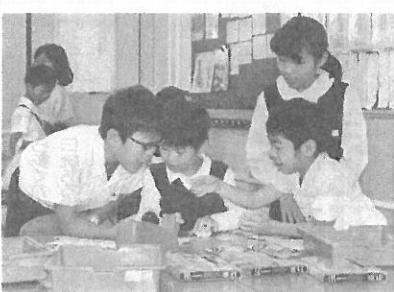
ホームページ

充実

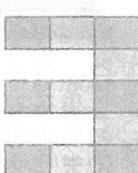
1つ目は、ホームページを充実させました。これまで、学校の概要、行事などの学校情報が大部分をしめていました。本年度は、研究授業の様子、学校・学年行事の様子など、日々の子どもたちの情報を多く載せることにしました。子どもたちの楽しそうな様子がよくわかりますので、雛松会の皆様も、ぜひご覧ください。



附天小祭 復活



2つ目は、附天小祭が復活したことです。附天小祭のように、子どもたちが考え、子どもたちが運営していく取り組みはいつの時代でも楽しいものです。学校では、ICT環境が整ってきましたので、子どもたちの発想がより柔軟で、充実したものになってきています。



防災消防訓練 実施

3つ目は、防災宿泊訓練の実施です。本校では以前からたくさんの宿泊行事を行ってきましたが、本年度は1年生、2年生から宿泊行事に取り組むことになりました。これは、防災教育の必要性が高まっている風潮を受け、自助・共助・公助の必要性を低学年から系統立てて学ぶためです。屋外で食事をしたり、ダンボールで寝場所を作ったりするなど、たくさんの学びがありました。



このように、附小では、学校と保護者の連携を一層高め、子どもたちの教育に関わっています。これからも、附小の取り組みに、ご理解・ご協力をいただければ幸いです。

Change Challenge Dream

学校安全

安全な学校生活のために

登下校通知システム

平成29年度からは、従来までの「電波バッジ」に代わって、「ミマモルメ（※1）」が導入されました。ランドセルの中に小型の「ICタグ（※2）」を入れておき、児童が校門（地下）に設置されたトリガーコイルの上を通過すると、ICタグが起動して電波を発信し、受信アンテナがその情報をキャッチします。

そして、あらかじめ保護者の方にご登録いただいたメールアドレス（携帯電話、スマートフォン、パソコンなど）に校門通過情報が自動配信されます。

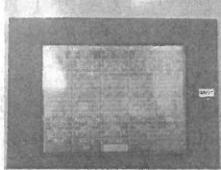
このようなシステムを活用しながら、児童が安全に登下校できるようにしています。また、緊急時には、電話連絡網や一斉メールを活用して、保護者に、迅速に確実に連絡ができるようにしています。



【児童の登校の様子】



警報表示盤



【防犯ブザーと警報表示盤】

校内安全システムの設置

本校では、学級教室や特別教室、廊下や吹き抜け、講堂や運動場など、学校敷地内の様々な場所に防犯ブザーが設置されています。これは、主に、学校に不審者が侵入した場合に児童を守るためにのシステムです。

どこかでブザーが鳴ると、児童は近くの教室などにすぐに避難し、内側からカギをかけるようにします。そして、室内の照明を消し、教室中央に集まって静かにします。教職員は職員室で「どこかのブザーが押されたか」をモニターし、校内放送で地点を確認し、さすまなどを持ち、現場に急行します。そして、安全が確認されるまで、警戒を緩めないように指導しています。年間に何度も誤報がありますが、「また誤報か」とならないように、万が一の場合に備えるように指導しています。

（2）子ども達の安全を考える取り組み

～見守りベストの作製、保護者参加の安全マップ作り～

本年は大阪教育大学附属天王寺小学校創立140周年という大きな節目を迎えました。

140周年にふさわしいPTA活動は何かと考えてみましたが、やはり活動の基本は子どもたちが健やかに安全な環境でいきいきと学べること、また、学校・地域との連携を重視した活動を少しでも増やしていくのかと考えました。

保護者として最も気になる点の1つがやはり子どもの「安全」です。これまで多くの保護者の皆様のおかげで立ち当番を実施し、子どもたちの通学時の安全を見守ることができました。また、保護者の皆様だけでなく、地域の方もまたたく間に見守ってくださり、子ども達の安全に大きく貢献いただけています。さらに、通学路の清掃も手掛けいただき、子ども達が、気持ちよく、安全に登下校できるよう活動してくださっており、感謝の気持ちでいっぱいです。

本年はさらに一步進め、見守り隊としての意識を高く持つ意味でもベストを作製することを提案し、学校および教育後援会の方のご協力もいただき、5月に作製することができました。子ども達の健やかな成長を願い、デザインは校門付近に設置してあります、悠久の鉢、フクロウをあしらった道標を参考に胸にデザインしました。腕章だけの時よりも遠くからわかりやすいこと、周囲の方からも認識されやすく、安全確保の上でも非常に効果があったと思います。



今年はその最初の取組みとして、5月に行われました日曜参観で活用の機会を頂きました。当日はお天気にも恵まれ、1年生から3年生の子ども達は、「ほく、わたしのお気に入りを見てね」と子ども達の目線で学校探検をしていただきました。子ども達が過ごしている学校を、一緒に探検することで、普段知らない学校を色々見ていただくことができました。また、子ども達の自慢げに案内する姿に笑顔があふれました。

4年生から6年生は、学校周辺の通学路の安全を保護者の方と一緒に安全マップを作製することで確認してもらいました。安全マップの作製にあたっては、前校長水野恵司先生（大阪教育大学社会教育講座教授）にご指導いただき、作製のポイントを指導いただきました。

通学路を黄色のベストを着た保護者の方に囲んでいたところで地域の方にも本校の取組みを見せていただくことが

平成13年6月8日に、大阪教育大学附属池田小学校で起きた事件を風化させないように、毎年6月8日（土日に当たる場合は、近い平日）には、不審者の侵入を想定した避難訓練を行っています。避難訓練後は、「学校安全管理委員会」を開催し、警察やPTA、地域の方からも意見をいただく場を設け、より効果的な対応ができるよう取り組んでいます。

また、教職員は、本校教職員で作成・出版した「小学校における安全教育ハンドブック（※3）」をもとに、さすまたや不審者の侵入に対する訓練を随時行い、また、各教科の学習や学校行事などでも、事故を未然に防ぐことができるようになっています。

このように、日頃からもしもの場合に備えたシステムづくりや訓練を行い、事故防止に取り組んでいます。

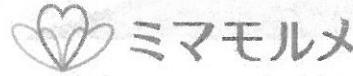
また、児童が学校にいる時間には、2名の警備員さんが正門で不審者の侵入を防いだり、校内を巡回したりすることで、児童の安全を守っています。

さらに、不審者の侵入を未然に防ぐため、24時間体制で防犯カメラが校内の数か所に設置され、映像は職員室でモニタリングしています。



【防犯カメラの映像 (カラー)】

※1、2 ミマモルメは、阪神電車の登下校メール配信サービスです。本校では、希望する保護者に費用を負担いただき、実施しています。



阪神電車の「あんしんサービス」 全サービスTOP

<http://www.hanshin-anshin.jp/>



【ICタグ】

※3 「小学校における安全教育ハンドブック」（ぎょうせい）

平成17年に出版された安全教育における理論と実践をまとめたものです。学校と安全に関する理論や、安全教育を実施していく際の計画づくりについて、本校の実際の取り組みをもとにしています。また、各教科での事故を未然に防ぐための具体的な留意事項や、不審者への対応、校外学習を含む学校行事についても、安全管理と指導体制づくりについて活用しています。



でき、さらに、実際に子供たちが作製する安全マップも見ていただき、新しい気づきがあったとコメントをいただきました。大学、地域の方との連携により附属天王寺小学校の取組みをよりよい形で進めることができたのではないかと感じております。当日協力いただきました、先生方、保護者の皆様に感謝申し上げます。

また、より多くの保護者の皆様に学校を身边に感じていただけることも重要と感じております。普段の活動を私自身も家内にまかせきりで、なかなか学校に足を運ぶことがなかったのですが、PTAの活動をさせていただくことで、学校を身近に感じ、以前より子供の話にもより耳を傾けられるようになりました。平日は仕事等でなかなか学校に来られない保護者の方もおられ、土曜日に保護者の方と一緒に活動できることはないのかと思案しているところであります。大阪教育大学科学教育センター安積典子先生にお聞きしましたが、家庭の中に理科の基本はあるふれています。身近にあるもので楽しみながら親子で科学に親しむことができる教わりました。保護者の方と一緒に家庭でできるイベントを共有し、各家庭でのコミュニケーションにつながることができれば素晴らしいと思います。

まだまだ試行錯誤ではありますが、学校・地域の皆様・保護者の皆様と身近な存在であるPTA活動を目指し、チーム学校として前進していく活動をしてまいりたいと思います。





伝統はクリエイティブな精神と行動の裡に

大阪教育大学附属学校部長
井上 博文

未来に向かって、個性に応じて伸びていくのは、子どもたちの仕事であり、安全で健康的な育ちの環境、最適な学びの場を調えていくのは大人の仕事であります。いつの時代にもやっかいなことや困難さが常にやらかにやらありました。意義のある長い歴史を刻むことができたのは、陰に日向にあれこれと心をくだき、支えてくださった、本校ゆかりの多くの方々のお蔭があってのことと存じます。ありがとうございます。心より感謝しております。

少子化による就学人口の激減や社会状況の激変をはじめとした附属学校園を取り巻く状況は、従前とは様を異にする難しい局面に立っております。今は教員養成大学・学部・国立の附属学校園の廃止も現実のものとなるほどに厳しい波が寄せております。

なぜ、今後も附属天王寺小学校は必要であるか?この問いは、大阪教育大学と附属学校園すべてに向けられたものであります。附属学校園の存在意義の明確化が課題とされ、大学・教職大学院と連携した、役割・機能・運営の在り方、入学者選抜・カリキュラム等々全てにわたって再構築が求められています。有効な教育実習の在り方、教育に係る先導的な研究への挑戦と成果の還元はもとより、地域との実効的な連携、教員研修の場など、従来以上の付加価値を社会から要求されています。

また、通常の教育的行為をこなし、さらに今日的な教育課題の解決を担って研究・研修する教師集団はいかにあるべきなのかを再検討する時期でもあります。子どもたちに限らず、教師にとっても働き・学ぶ有意義で楽しい学校でなくてはなりません。

大阪教育大学附属学校園の伝統は、かつての成功体験にいたずらに拘泥し変革を怖れ、守株の懲りたることにはなく、進取果敢な気性・行動であり、柔軟性、クリエイティブ(creative)の裡に育まれてきました。正に附属天王寺小学校はチャレンジ精神を發揮し、その先頭をきり、時代時代の教育課題に見事に応え、その過程で卒業生、教員をはじめ数多の有意な人材を輩出してきました。

ここに再び創立140周年を節目とし、この良き進取の伝統を引き継ぎ、さらに活性化することによって、教育の未来を先導し、大阪の地になくてはならない学校として、未来に続くいっそうの発展と充実の道を歩み拓いてまいりましょう。



一つの文化となった学校

教育後援会理事長
西村 泰彦

大阪教育大学附属天王寺小学校の創立140周年を心よりお祝い申し上げます。

10年前の創立130周年の「若松」に、私は平成18年度PTA会長としてお祝いの言葉を寄稿させて頂きました。10年間で附属天王寺小学校を取り巻く環境は劇的に変化した感があります。その変化に合わせて、文科省から求められるもの、大学から求められるもの、保護者から求められるもの、そして一番大切なとして子供たちから求められるものに対し、昭和30年に設立された教育後援会として学校の先生方とPTAとともに柔軟に対応してきました。変わらなければならなかったことでは、附属天王寺小学校の特色の一つである、将来性のある社会的リーダーを育成するための多彩な教育実践と行事に関して、これまでのハード面の後援からソフト面の後援が必要とされる様になり、不十分ながらもなんとか子供たちが安全に、そして最も実践教育を受けられるようサポートできていると実感いたしております。開校から140年の歴史の中で各界で活躍する卒業生が、少ない母数にも関わらず多数輩出されているのも、歴代の校長先生はじめ教職員の方々の教育への情熱と、多数の先輩方のご支援の結果であります。ただ、一つの組織で活動が140年となりますと、これはもはや「大阪教育大学附属天王寺小学校という文化」と考えられます。文化は消滅させる訳にはまいりません。それを踏まえ、より良い学校にしていくためにも変えて良いものと、変えてはならないものがあろうかと思います。変わった後のことを考えず変わることを「変化」といいます。それを考えながら変わることは「進化」といいます。いま、教育環境を取り巻く多くの問題と課題に柔軟に対応しつつ、そして絶えず子供たちの夢を叶えることを基本として、今後も「個が活ける学校」が進化し続けることをさらに教育後援会として援助できますようさらに努力いたしますとともに、なお一層のご指導とご支援をお願い申し上げ、附属天王寺小学校の益々のご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉をさせていただきます。

祝辞 / 附小の思い出



附小の思い出
昭和42年卒
中澤 良美

創立140周年おめでとうございます。

私は昭和42年卒業で、附小にいたのはもう50年も前のことになります。それでも時々「そういえば…」と思い出す貴重な経験をご紹介したいと思います。

1964年、4年生の時東京オリンピックが開催されました。担任の先生が、「学級オリンピックをしよう!」とおしゃって、粘土でメダルを作って下さって、跳び箱や鉄棒、幅跳びや短距離走などの種目で体育の授業が盛り上がりました。昼休みにテレビのある部屋まで移動して、ライブのオリンピック中継を見せて頂いたこともあります。本を読んで先生の所に持っていくと先生が本のタイトルを記録して下さるので、みんな競争で本を読んで冊数を競いました。

高学年になると、中学校のような教科担任制が始まりました。社会では白地図帳をもらって、都道府県名や県庁所在地、山地や河川の名前などを書き込む宿題が繰り返し出されてテストもありました。当時は面倒くさいテストも嫌でしたが、中高時代や大人になってもこの基本知識が大変役立っています。国語の授業で忘れないのが、「漫画は良いか悪いか」についての作文の授業です。まず自分の主張を決め、次にそれを論述する材料を集めて並べ、最後に結論を述べるといった、論文やディベートの基本となる書き方を教えて頂きました。これは大学の卒論を書くときに思い出しました。

1年生から6年生までどの授業も、先生方の情熱と工夫が溢れていたと今改めて感謝の気持ちが湧いてきます。授業だけでなく豊富な行事も心に残っています。商店も出るしご褒美ももらえた華やかな運動会、世界遺産の高野山の大塔の前でラジオ体操をした林間学校、晩御飯のデザートにスイカが並いた白浜の臨海学校、クラスで出し物を競った芸能会、吹雪の日もあれば雪遊び日もあった耐寒遠足など。

子供を育ててみて分かりましたが、小学生の悪ガキたちのお世話は本当に大変だったと思います。我慢強く接して下さった先生方、旅館や宿坊の皆様、父兄の皆様、本当に有難うございました。お陰様で大変楽しい思い出が沢山出来ました。附小での生活では、勉強の中に遊びがあり、遊びの中に勉強がありました。ここでしか味わえない貴重な豊かな体験をさせて頂いたと感謝しています。

在校生の皆さん、これから同窓生になられる未来の附小生の皆さん、私たちのように素敵な小学生生活を楽しめることを願っております。



Change Challenge Dream

平成28年度PTA会長
中野 光典

大阪教育大学附属天王寺小学校が創立140周年を迎えたことに対しお祝いを申し上げます。創立140周年を迎えるにあたっては幾多の困難があったかと思いますが、本校に関わってこられた先生方や保護者、大学関係の皆様、そして卒業生の皆さんの大なる努力により時代の荒波をくぐり抜けるとともに、素晴らしい校風が培われ、また、伝統が作り出されてまいりました。まずは先人たちの努力に対して敬意を表したいと思います。

さて、私が本校に関わることになりましたのは自身が本校に104期生として入学し、6年間を過ごすことになったことが始まりですが、その後、保護者として、また、PTA役員として母校に関わることとなりました。私自身、本校と強い縁を感じております。

会長として務めさせていただきました1年間、PTA活動におきましては日々行われる活動に加え、新たな活動にも取り組みました。学校周辺の清掃活動はその一つで、地域の皆さんとの関係を更に深めることにより、多くが電車通学する本校の子ども達の安心・安全を確保する活動として歩み始めました。その取り組みは、次年度の様々な取り組みの礎になっていると思います。

附属天王寺小学校は今まで輝かしい実績と共に、多くの分野で活躍する人材やリーダーを輩出してきましたが、引き続き日本を代表する教育実践校であるためには、様々な変化を柔軟に取り入れていくことが求められていると思います。改革をすべきところは迅速にそして大胆に、そして守っていくところはこだわって残していく。140周年事業のテーマである「Change Challenge Dream」が正にこれからからの本校にとって新たな一步になることを願っております。

最後になりましたが、内海副会長をはじめとするPTA役員、教育後援会役員の皆様には非力な会長を助けていただきましてありがとうございました。また、PTA活動に多大なるご協力をいただきました柳本校長先生、山手副校長先生をはじめ諸先生方に心より感謝申し上げます。140周年記念事業におきましては、西川会長をはじめとする離会の皆様、また、教育後援会の西村会長には何かとご協力いただきましたことを心よりお礼申し上げます。

子どもたちが附属天王寺小学校からはじまり、はるかかなにみえる輝かしい未来に向かい、風を颶ぎと切りながら一筋に飛んでいく、正に校歌に書かれたとおりの輝かしい子どもたちの未来が、これからも末長く続いていることを願ってやみません。



My School My Home

昭和56年卒

西村 尚子

私の母は大変マメで、実家の本棚には生まれた時からの丁寧なアルバムに加えて、卒業アルバム、文集、絵日記の綴り、そして“はばたき”が今でもすぐ手に取れる場所にあります。当時の“はばたき”を読み返すと、発見の連続の中一生懸命だった当時の自分の姿を懐かしく思い、同級生や先輩、後輩の幼い文章などに癒されながら、思春期以降の記憶や今の思考とは全く違う、幼少期の想いを、当時のエネルギーを感じます。

懐かしい記憶を辿ると、舟ヶ崎先生に「この子は附属の顔をしている」と太鼓判を押され、俄然その気になった両親は月給の遅刻だった私に附小受験を挑戦させました。入学検査の時に歌った「はちぶんぶん」という歌は、今でも歌詞もメロディもすぐに出てきます。

当時、御堂筋線の料金が45円で、5円玉を集めていること、提灯ブルマの体操服、今でも夢に出そうな校舎裏の蝦夷人形、ショックを受けた図書室のはだしのゲン、机の中に放置していたカビだらけのパン、天王寺のバイパス脇の階段を超えて大学のテニスコートでのクラブ活動…懐かしい瞬間がよみがえります。

忘れられない行事が多いのも附小ならでは。高野山でのお墓を抜ける軒試し、正直して受けた遠泳参加の面接、ワールドサファリがオープンに併い、なぜか親も白浜に…? フルコース料理のテーブルマナーを盛り込んだ修学旅行、花火や焼肉を楽しんだスクールキャンプ、自家製の汗取りを仕込んで、キャラバンシューズにアイゼンをはめて挑んだ恒例の耐寒遠足。私自身も親となり、また色々な子どもや保護者と関わってまいりますと、先生方のご準備やお気遣いはいかほどのものだったのかと、あらためてお察しいたします。

先日、6年生時の担任の川村一郎先生が叙勲されたので、植田啓一君と平岡正君と一緒に、おそらく40年前と変わらない淡談のご自宅に、6年3組のメンバーから寄せられたメッセージを持ってお祝いを伝えに行きました。先生の書棚には古いアルバムが整理されてあり、見ると私の部屋にある写真は、ほとんど先生もお持ちでした。一枚一枚を見児童の名前やエピソードを交えて、たくさんの教え子一人ひとりの個性や思い出を嬉しそうに語られるお姿を目の当たりにして、私は本当に素晴らしい学び舎で愛に包まれて育ってきたんだと感動し、あらためて母校の大きさに心が震えました。

私たちは誰しもが子どもでした。母校は私たちが未来にはばたく力を深い愛情と熱意を持って育んでくださった場所であり、まぎれもなく自分自身のルーツです。実際、すっかり大人になった私にとって、附小の繋がりは温かく、人生の色々な節目で支えられてきました。ランプを迎え、悲しいことやつらいこと、プレッシャーに押しつぶされそうになることもありますが、上に向いて、しっかりと見て進み、自分自身も立て直そうと頑張れる主体的な力を授けてくれたのも附小のような気がします。

100期生である我々は、この小学校に入學してから気がつけば40年以上が経ちました。この年月に驚きを感じると同時に、久しぶりに会う同窓生と話す度、それぞれの分野で経験を積み重ね、個を活かしながら社会に貢献されていることを大誇らしく感じます。それぞれの夢を親から託され、そして自らも抱いて同窓となったすべての方々が、子どもの頃の情熱を思い出し、今後の人生を豊かに過ごせることができれば、これ以上の喜びは他にはないでしょう。大好きな母校です。



入りたくなかった、けど入って良かった

平成21年卒

崎原 盛偉

14年前の4月、僕は128期生としてこの大阪教育大学附属天王寺小学校に入学しました。それから小・中・高と12年にもわたり、附属にお世話になりました。当時は附小に入学するのがとても嫌でした。家の近所の幼稚園に通い、周りの友達はみんな近くの学校に入学する中、自分1人だけ小学校受験をし、片道約40分の通学をしなければならない。友達をまた作らなければならないということがとても辛かったです。合格者の抽選で受かったと分かったとき、嫌だと泣いていたのを今でも思い出します。

そんな気持ちで入学した附小でしたが、6年間を振り返ってみるととても楽しい小学校生活だったように思います。遠足、通学班、学芸会、林間学舎、臨海学舎など様々な行事もありました。休み時間には野球をしたり、ドッヂボールをしたり、ケイドロをしたりと時間さえあればグラウンドに出て遊んでいました。

楽しい思い出ばかりの6年間でしたが、僕の中で最も印象に残っている出来事が別にあります。それは6年生時の臨海学舎です。海で泳いだ後、そのままお風呂に入ろうと思ったのですが、友達の1人が部屋に着替えを忘れてしまい、みんなで取りに帰りました。しかしドアはオートロック式で、ドアのストップバーを忘れていたため、外から入れない状態でした。その時、友達の1人が隣の部屋のベランダから自分達のベランダの鍵がかかっていないことを確認すると、ベランダの手すりをつかって入ってしまいました。それで僕達は無事お風呂に入れた訳ですが、もちろん先生に見つかり、呼び出され、そのまま自宅に帰らざるの寸前まで怒られました。その結果、本番で泳がしてもらえず、翌日に数名で1000メートルを泳ぎ切りました。怒られた日の夜、今まで一緒に練習してきた班のメンバーに謝ったとき、泣いてくれる子もいて、自分が周りに恵まれていることを知るとともに申し訳なさ、悔しさが溢れ、号泣したのを覚えています。今思えばなんてバカなことをしたんだと思います。

ここまで長々と思い出話をばかりしていましたが、このように色々附小の思い出を振り返る機会を下さって本当に感謝しています。附小でたくさんのこと学びました。そしてたくさんの大切な出会いもあったと思います。一緒に学び、笑い、泣き、遊ぶ友達、お世話になった先生方。附小に入学していくなければ全く違った人生を送っていたと思うと附小で良かったなと思います。

附小の思い出



創立140周年おめでとうございます。

平成22年卒

宮本 実侑

この度は、大阪教育大学附属天王寺小学校の創立140周年を迎えたことを心よりお祝い申し上げます。

私は129期生ですので、附小に在学致しましたのは平成16年から22年の6年間になります。在学中は本当に様々な経験をさせていただきました。中でも印象に残っているのは、やはり5・6年生時の臨海学舎です。夏になると毎日のようにあった2時限続けての水泳特訓は、今思い出しても過酷なものだったと思います。私は、特別泳ぎが上手いわけではありませんでしたが、練習には一生懸命取り組んでおりました。その甲斐あってか、5年生の時は副班長、6年生の時は班長に抜擢していただき、先生方は真面目に頑張ったことを評価してくださったのだと嬉しく思ったのを覚えています。そして、先生方の熱く厳しいご指導のお陰で、参加者全員が無事に最後まで泳ぎ切ることができました。ゴールで校長先生が手を振って引き上げてくださったその力強さに安心し、その後で水砂糖の甘さに顔を綻ばせたのも良い思い出です。

また、運動会での組み体操も忘ることはできません。特に6年生時の組み体操は、挑戦的なプログラムで思い出深いです。練習中は難しい技が上手く決まらなかったり、インフルエンザの流行で思つたように練習ができなかったりと、苦悩の連続でした。しかし、そうして私たちと先生方に作り上げた本番の演技は、本当に素晴らしいものでした。演技が終わった時の達成感と努力が報われた喜びは、思い出出すたびに今でも私を奮い立たせてくれます。

私にとって附小で過ごした日々はかけがえのないもので、私という人間の核を育てていただいた場所であると思っております。毎日の授業はもちろんのこと、行事や取り組みにおいて、私に多くの可能性を教えてくださいました。特に、仲間達と力を合わせて一つのものを作り上げる楽しさ、素晴らしいことを最初に教えてくださったのは紛れもなく附小です。6年間、真摯に向かい合ってくれた先生方に改めて感謝し申し上げます。ありがとうございました。

末筆ながら、附属天王寺小学校の益々のご発展と児童の皆さん、先生・父兄の皆さん、卒業生の皆さんのご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。これからも、附属天王寺小学校が児童の皆さん可能性を見出し、育て、伸ばしてくださる場でありますように。



学んだことを使って

平成23年卒

松原 知穂

創立140周年おめでとうございます。ふと140年前の日本はどんな状況だったのかなと調べてみると、まだ大日本帝国憲法も発布されておらず、この学校の歴史を感じました。

私は小学4年生の時にトランボリン競技を始め、今年で9年目になります。この8年と少しの間で色々なことがあります。今ではナショナルチームにも選ばれ、2020年の東京オリンピック出場を目指して練習しています。

この附属天王寺小学校で学んだことは沢山ありますが、その中でもトランボリン競技に役に立てる2つのことを伝えたいと思います。

まず1つ目は、なぜこのような結果になってしまったのか原因を考えることです。これは理科の実験やレポートを書くときに学びました。実験ではただ結果を見るだけでなく、なぜそのような結果になつたのか、どうやってその結果になつたのか自分たちで考え、その後先生に教わっていました。そのおかげで、答えをすぐに聞くではなく、まず自分で考えてみることが習慣になりました。

これがどうトランボリンに活かされているかというと、練習中に上手くいかないとき、すぐに先生にアドバイスをもらうのではなく、まずは自分で考えてみます。例えば、回転不足になるのは初めの踏み込みが弱いからなのか、上に跳ばないといけないのに前に跳んでしまうのは上半身が前に倒れているからなのかな、上手くいかない原因を考えます。自ら考えることで、人に言われるより印象に残り、忘れにくくなります。また、このことを繰り返することで演技中でも考えられるようになり、すぐに修正することができるようになりました。

次に2つ目に学んだことは、観察力です。これも理科の授業で学びました。授業中に実験結果を班ごとに発表しているとき、みんなの発言に驚いたことを覚えています。なぜなら、私が全く気付かなかつた変化や結果を発表していたからです。変色した、発泡しているなど大きな変化だけでなく、本当によく見てないと気付かないような変化を見ていたみんなに興味を持ったのを覚えています。それから私はみんなに負けないくらい、よく観察するようになりました。

この小学生のときに養われた観察力はトランボリンでも活用できました。上手い選手の演技を見て、どこが自分と違うのか、どのように技をかけているのか、目で見てわかる事はすべて自分のものにしようと必死で観察しています。そうすることで、頭の中でイメージができる、言葉で説明されるより簡単に実践することができるのです。私は小学4年生からと少し遅めにトランボリン競技を始めたのですが、この観察力のおかげでここまでこられたのだと思っています。

最後になりましたが、このような将来役に立つ力を与えてくれた、学校や先生方、後援会の方々に心から感謝しています。私は、東京オリンピックでメダルを獲得して皆様に恩返しできたらなと思っています。



一期一会

平成25年卒

金 悠支

附小で過ごした6年間は僕にとって掛け替えない時間となりました。今でも時折卒業アルバムを開くことがあります、その度に附小での日々、思い出は昨日のようになります。そしてなにより掛け替えない沢山の仲間に恵まれました。林間学舎、臨海学舎、運動会、学芸会、修学旅行、毎日の授業、毎日の休み時間。どれをとってもいつだって周りには最高の仲間たちがいました。その中でも最後の臨海学舎と運動会は特別です。まずは、臨海学舎。1000メートルテスト当日の天候は最悪、波も大荒れ、警報が出るほどでした。僕たちは待ちに待つ警報が解除されると同時に海に出ることを決意しました。警報が解除されたとはいえ、泳ぐにはまだ危険な状態でした。それでも僕たちは全員で泳ぎ切る覚悟を持って臨みました。普段とは違う海に慣れて、荒れる波に呑まれ、流されてしまいそうな時もありましたが、互いに声を掛け合い、励まし合いながら一生懸命に泳ぎました。そうして、時間はかかったものの無事全員泳ぎ切りました。校長先生に引かれて海から上がった時、仲間と共に共有したあの感動は忘れることが出来ません。そして、運動会。組体操では60人ピラミッドをつくることになりました。気を緩めれば崩れてしまう恐れがあり、全員が1つにならないと完成しない難易度の高い大技でした。もちろんすぐには成功せず、何度も何度も練習しました。時には失敗し、怪我をしてしまうこともあります。迎えた本番では、沢山の観客を前に緊張しましたが、この時も僕たちは互いに声を掛け合い、励まし合いながら組んでいきました。そして完成し、合団の笛が鳴った時の鳴りやまない拍手と感動を、今でもはっきりと覚えています。

互いに信頼し合っていたからこそ成し遂げることができたのだと思います。また、最後の臨海学舎と運動会は、132期を象徴する行事となりました。6年間で沢山の行事、出来事がありました、それらを132期の仲間と共に経験できたからこそ成長することができ、今の僕があると思います。「一期一会」僕にとって附小で132期と出会ったこの出会いこそが、まさに「一期一会」です。この出会いに感謝し、この出会いを大切にしていきたいと思います。

最後になりましたが、附属天王寺小学校140周年本当にありがとうございました。附小の卒業生であることを光榮に、そして、誇りに思います。これからも我が学び舎が発展していくことを心から願っています。



一勞永逸

平成26年卒

藤居 佳来

小学生の頃は、今思うととても些細なことに対しても気持ちが大きく揺れ動いていた。私は今年で16歳になる。要するに卒業してから四年が経つのだ。学生時代の一年とは長いもので、一年の間に自分を取り巻く環境というのは大きく変わるものだ。そして、その変化が大きくなればなるほど前の自分の置かれた状況や行動を思い出し「あの時はよかった」や「なぜ、私はあんな馬鹿な行動をしたのだろう」などと言いたくなるのは学生であるなら必然だろう。それが短くても四年前のことを思い出して書くのだから、そんな思いは無数に出てくるのである。そして、その多くは自身にとって誇りになるようなことではないものだ。

私が三年生の時だ。ニュースを早く読む音読大会のようなことを授業でやったのだが、何故か私はその時、教室の前で読む人に選ばれてしまったのだ。私は人前で話したりするのも得意ではなく、その上クラス内でもしゃべる方ではないのだから、急に多くの人の前で音読をするなんて、もう結果は目に見えているだろう。非常に恥ずかしいことになったのであった。このような事を私は六年間で多く経験している。それだけ人前に立って何かをする機会が多かったのだ。しかし、小学校というものはそのような経験だけでなく良いことも自然に経験するのである。

高学年ぐらいになってくると授業を受け終わったら、その授業の内容をまとめて感想を書いて提出する事があり、私は数学などの雑学が好きで、よくまとめたりしていた。しかし、私の字はとても汚く、読むことさえも困難なほどであった。そんなノートを提出していたのだが、帰ってくるノートはしっかりと内容を読んでくれて評価してくれていたものだった。そして先生はいつも私に、字は読みにくいけれど面白い内容だったと言ってくれたのだ。これが私の数少ない誇れる話である。

私はまだまだ数多くの小咄ともいわゆる出しがあるのだが、多くの話が上記の話に似ていて附属天王寺小学校で得たものの大きさには圧倒される。現在、私は人前で話すことが余り苦ではなくっているのだ。それはやはりこの小学校での経験が生きているのだと思う。附属天王寺小学校での経験の多くが当時はつらかったり、非常に面倒であったりしたものだったが、その経験を経て、今や今後が確実に良いものになるのである。附属天王寺小学校、ありがとうございます。そして140周年おめでとうございます。

附小の思い出



文武両道

平成27年卒

伴 瞽汰

創立140周年おめでとうございます。小学校生活を振り返ってみると、附属天王寺小学校では、本当に様々なことを経験し学びました。

5・6年生で行われる「臨海学舎」では、班ごとに整列し1キロを泳ぎます。僕は2年続けて班長になり、泳ぎながら仲間へ声を掛け、列を整え仲間と励まし合って泳ぎました。臨海学舎は当日だけでなく、ブルーリオ授業が決まるところからたくさん先生方のご指導があり、班のみんなの協力、励ましが必要でした。この「臨海学舎」を通して、お互いが支え合うことの大切さ、みんなをまとめる難しさを学び、やり遂げた後の達成感のすばらしさを経験しました。

6年の運動会では、組立て体操の一番の醍醐味である全員ピラミッドが危うく取りやめとなる事が発生しました。全員ピラミッドは一つ間違えば大事故となる危険があるので、学年全員がまとめて真剣に取り組まなければ先生たちの許可が出ないのです。僕たちの学年はなかなか許可が出ず、とうとう本番前日になり、その日の挑戦でできなければ明日の運動会での全員ピラミッドはなし…。焦りはつもりましたが、最後の最後で成功させ、運動会当日も全員で見事に成功させることができました。僕は、このことを通じて、時間はかかっても最後まで仲間に信じ強い気持ちであきらめずに取り組めば困難でも乗り越えることができる事を学びました。

学校行事以外に楽しめた思い出と言えば放課後や授業前の遊び時間です。同じ学年の友達はもちろんですが、他学年の生徒や先生と一緒に運動場で遊んだことが非常に良い思い出です。僕は野球が大好きで、運動場に出て野球をしている子がいると上級生でも入っていて一緒にさせてもらっていました。僕たちは電車通学がほとんどで、家に帰ってから集まることがなかなかできなかったので、非常に貴重な時間でした。また、上級生でも、どんどん積極的に話しかけて行動していく僕は、仲間に入れてくれるということを経験しました。

また、小学校生活で心に残っている言葉があります。僕は、小学校1年生の時から野球チームに入っています、中学進学を目前にして、野球と勉強の両立について思い悩んだことがあります。「二兎を追うものは一兎も得ず」という言葉もあります。どちらかに絞った方がいいのか迷っていました。

その時、当時の担任の先生が言ってくれた言葉が、「努力があれば二兎を追うものは二兎とも得る。最初から努力をしないものは、一兎も得ることできない」という言葉です。

成し遂げようと努力することができるものは両方成し遂げることができる。だから、両方ともがんばれ!と助言をいただきました。この言葉は、「文武両道」を学校生活の目標にしている今の僕の支えになっています。

このような素晴らしい小学校生活を過ごし、たくさんのことを得た附属天王寺小学校、先生、仲間に大変感謝しています。附属天王寺小学校での日々は、これからも色あせることなく、僕の人生の土台であり続けると思います。そして、ここで得られたものを大切にして、これから的人生に自信をもって突き進んでいきたいと思います。



強く逞しく

平成28年卒

本田 千晴

朝、私は電車で附小生をよく見かけます。その度に、私は附小に通っていた頃の自分を思い出します。

小学一年生の時、私はとても泣き虫で学校に行く前に毎朝泣いていました。今は、その泣いている時間にもっと遊べば良かったなと思うこともあります。一人で通学することに慣れていないかった当時の私には、それは無理だったのかもしれません。しかし、そんな時でも学校に行けば、何故か不安が消えて、いつの間にかみんなと楽しく遊んでいました。それから運動会、学芸会など大きな行事で仲間とぶつかって互いに争いながら乗り越えていくうちに私は、だんだん逞しくなっていました。それは、友達と学んだり、遊んだりしていくうちに楽しさが不安に勝ったからかもしれません。そうして、私は二年生、三年生、…と学年が上がり、あっという間に六年間が過ぎてしまいました。

私は、附小で成長できたことはそれだけではありません。運動会や学芸会、他の学年との交流などのたくさんの行事から私はたくさんのことを学び、またよい思い出となり、今でも私を支えてくれています。でも、私の支えとなっているものは行事だけではありません。附小ではまだまだたくさんのことを学びました。例えば、普段の授業。授業で学んだことと言っても、私が学んだのは、算数の計算の仕方や国語の漢字の暗記などはもちろんですが、それに加え全教科に共通する、自分の意見・考えがどのようにすれば相手に理解してもらえるのか、伝わるのか、ということを考えることです。でも、それを学ぶには、自分一人では難しいことだと思います。そう考えると、たくさん発表する機会が授業の中であつたことはとても恵まれていたんだなと思いました。

こうして振り返ってみると附小では、その時気づかなくても、たくさんのことを学んでいたんだなと思いました。そして、その学んだ一つ一つのことに対する思い出があります。といつても、それは全てが楽しい思い出ではありません。怒られてしまった苦い思い出や、転んで痛かった思い出や、他にも悲しい思い出、辛かった思い出など、たくさんあります。でも、楽しかったことより辛かったことの方が学んだものが大きかったのではないかと思います。それが、今の私を強く逞しくしてくれるかもしれません。私は、大きな影響を与えてくれた附小に感謝でいっぱいです。

創立140周年本当にありがとうございました。

第37回総会でお会いしましょう。

温故と恩師席で知新

恩師の先生方に、今回の雑松会第37回総会・懇親会のご案内を差し上げたところ、返信はがきに近況報告のコメントを寄せて頂きましたので、ご紹介します。

宝木里美先生

(昭和29年4月～昭和47年3月・国語)
ベルアルトに入所中。

辻本茂先生

(昭和30年6月～昭和48年3月・理科)
出席の予定であります。87歳の今、何があるともわかりません。充分注意してお目にかれますように留意いたします。

灰山徳先生

(昭和33年9月～昭和39年3月・家庭)
おかげ様にて強い認知症もなく、毎日娘たちと楽しく過ごさせていただいております。

前田一勇先生
(昭和36年10月～昭和41年3月・社会・道徳)
足の力が弱くなり、5分歩けなくなり、どんな会合にも行けなくなりました。

原晃郎先生

(昭和39年11月～昭和46年3月・図画工作)
92歳。老人ホームに入居しています。寝たまりです。
ご盛会をお祈りしております。

三村幸男先生
(昭和41年4月～昭和49年4月・理科)
お世話戴き有難うございます。小生健康上の理由で次
席をさせていただきます。ご出席の皆様よろしく。

田中健司先生

(昭和41年4月～昭和63年3月・図画工作)
体力・気力の維持と少しの充実に向け、体を動かすこと、何にでも好奇心をもって対応することに努めています。そうしていくも結果は思うようにいかず、目標の半分位しかできず反省の日々が続きます。前向きに考えられるに感謝です。

奥野忠昭先生

(昭和45年4月～昭和56年3月・国語)
毎日、本を読んだり、雑文を書いています。ま
ずは元気に暮らしています。趣味として写真を撮り、ク
ラブに出品しています。

川村一郎先生
(昭和45年4月～昭和57年3月・体育)
鷹犬相聞囃。それにつられてわが家の老夫も遠吠えする。静かでねたやか。のんびりと暮らしています。会のお世話、ご苦労さんです。

成瀬修先生

(昭和45年4月～昭和47年3月・音楽)
益々の御発展を願っています。

山下良一先生

(昭和46年4月～昭和54年3月・算数)
78歳にならましたが、幸いに元気です。
海外在住の子どもの支援分野はご縁を持続しています。
家の前の小川にボタルを復活させる取組みをしながら遊んでいます。

河合忠勝先生

(昭和46年4月～昭和57年3月・図画工作)
元氣で過ごしております。腰痛の為、欠席します。

成瀬澄子先生

(昭和47年4月～昭和49年3月・音楽)
皆様の益々の御活躍、御発展を願っております。

大橋光雄先生

(昭和48年4月～平成7年3月・社会)
70歳過ぎ。医師の指導もあり、食生活の改善に取り組んでいます。今までのようになどを好きに食べるのでなく、量と質をついた結果、体重が11～12kg減りました。体が樂にならました。年中「食べたい」という欲求と闘っています。

中田智己先生

(昭和56年4月～平成10年3月・体育)
所用のため欠席させていただきます。
ご盛会をお祈りしております。

山田良則先生

(昭和56年4月～平成2年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

坂元健一先生

(昭和56年4月～昭和60年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

大西秀彦先生

(昭和55年4月～昭和58年3月・理科)
天王寺附小に勤務していましたことを懐かしく思い出しております。短期間ではあります。東京に出て36年が過ぎました。元気にしております。

西守玲子先生
(昭和54年4月～昭和56年3月・音楽)
附小の益々の発展と先生方の活躍、心よりお祈り申上げます。

齊原博正先生
(昭和55年4月～平成9年3月・体育)
ご盛会をお祈りします。

川村一郎先生
(昭和45年4月～昭和57年3月・体育)
鷹犬相聞囃。それにつられてわが家の老夫も遠吠えする。静かでねたやか。のんびりと暮らしています。会のお世話、ご苦労さんです。

成瀬修先生

(昭和45年4月～昭和47年3月・音楽)
益々の御発展を願っています。

山下良一先生

(昭和46年4月～昭和54年3月・算数)
78歳にならましたが、幸いに元気です。
海外在住の子どもの支援分野はご縁を持続しています。
家の前の小川にボタルを復活させる取組みをしながら遊んでいます。

河合忠勝先生

(昭和46年4月～昭和57年3月・図画工作)
元氣で過ごしております。腰痛の為、欠席します。

成瀬澄子先生

(昭和47年4月～昭和49年3月・音楽)
皆様の益々の御活躍、御発展を願っております。

大橋光雄先生

(昭和48年4月～平成7年3月・社会)
70歳過ぎ。医師の指導もあり、食生活の改善に取り組んでいます。今までのようになどを好きに食べるのでなく、量と質をついた結果、体重が11～12kg減りました。体が樂にならました。年中「食べたい」という欲求と闘っています。

中田智己先生

(昭和56年4月～平成10年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

山田良則先生

(昭和56年4月～平成2年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

坂元健一先生

(昭和56年4月～昭和60年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

大西秀彦先生

(昭和55年4月～昭和58年3月・理科)
天王寺附小に勤務していましたことを懐かしく思い出しております。短期間ではあります。東京に出て36年が過ぎました。元気にしております。

西守玲子先生
(昭和54年4月～昭和56年3月・音楽)
附小の益々の発展と先生方の活躍、心よりお祈り申上げます。

齊原博正先生
(昭和55年4月～平成9年3月・体育)
ご盛会をお祈りします。

川村一郎先生
(昭和45年4月～昭和57年3月・体育)
鷹犬相聞囃。それにつられてわが家の老夫も遠吠えする。静かでねたやか。のんびりと暮らしています。会のお世話、ご苦労さんです。

成瀬修先生

(昭和45年4月～昭和47年3月・音楽)
益々の御発展を願っています。

山下良一先生

(昭和46年4月～昭和54年3月・算数)
78歳にならましたが、幸いに元気です。
海外在住の子どもの支援分野はご縁を持続しています。
家の前の小川にボタルを復活させる取組みをしながら遊んでいます。

河合忠勝先生

(昭和46年4月～昭和57年3月・図画工作)
元氣で過ごしております。腰痛の為、欠席します。

成瀬澄子先生

(昭和47年4月～昭和49年3月・音楽)
皆様の益々の御活躍、御発展を願っております。

大橋光雄先生

(昭和48年4月～平成7年3月・社会)
70歳過ぎ。医師の指導もあり、食生活の改善に取り組んでいます。今までのようになどを好きに食べるのでなく、量と質をついた結果、体重が11～12kg減りました。体が樂にならました。年中「食べたい」という欲求と闘っています。

中田智己先生

(昭和56年4月～平成10年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

山田良則先生

(昭和56年4月～平成2年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

坂元健一先生

(昭和56年4月～昭和60年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

大西秀彦先生

(昭和55年4月～昭和58年3月・理科)
天王寺附小に勤務していましたことを懐かしく思い出しております。短期間ではあります。東京に出て36年が過ぎました。元気にしております。

西守玲子先生
(昭和54年4月～昭和56年3月・音楽)
附小の益々の発展と先生方の活躍、心よりお祈り申上げます。

齊原博正先生
(昭和55年4月～平成9年3月・体育)
ご盛会をお祈りします。

川村一郎先生
(昭和45年4月～昭和57年3月・体育)
鷹犬相聞囃。それにつられてわが家の老夫も遠吠えする。静かでねたやか。のんびりと暮らしています。会のお世話、ご苦労さんです。

成瀬修先生

(昭和45年4月～昭和47年3月・音楽)
益々の御発展を願っています。

山下良一先生

(昭和46年4月～昭和54年3月・算数)
78歳にならましたが、幸いに元気です。
海外在住の子どもの支援分野はご縁を持続しています。
家の前の小川にボタルを復活させる取組みをしながら遊んでいます。

河合忠勝先生

(昭和46年4月～昭和57年3月・図画工作)
元氣で過ごしております。腰痛の為、欠席します。

成瀬澄子先生

(昭和47年4月～昭和49年3月・音楽)
皆様の益々の御活躍、御発展を願っております。

大橋光雄先生

(昭和48年4月～平成7年3月・社会)
70歳過ぎ。医師の指導もあり、食生活の改善に取り組んでいます。今までのようになどを好きに食べるのでなく、量と質をついた結果、体重が11～12kg減りました。体が樂にならました。年中「食べたい」という欲求と闘っています。

中田智己先生

(昭和56年4月～平成10年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

山田良則先生

(昭和56年4月～平成2年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

坂元健一先生

(昭和56年4月～昭和60年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

大西秀彦先生

(昭和55年4月～昭和58年3月・理科)
天王寺附小に勤務していましたことを懐かしく思い出しております。短期間ではあります。東京に出て36年が過ぎました。元気にしております。

西守玲子先生
(昭和54年4月～昭和56年3月・音楽)
附小の益々の発展と先生方の活躍、心よりお祈り申上げます。

齊原博正先生
(昭和55年4月～平成9年3月・体育)
ご盛会をお祈りします。

川村一郎先生
(昭和45年4月～昭和57年3月・体育)
鷹犬相聞囃。それにつられてわが家の老夫も遠吠えする。静かでねたやか。のんびりと暮らしています。会のお世話、ご苦労さんです。

成瀬修先生

(昭和45年4月～昭和47年3月・音楽)
益々の御発展を願っています。

山下良一先生

(昭和46年4月～昭和54年3月・算数)
78歳にならましたが、幸いに元気です。
海外在住の子どもの支援分野はご縁を持続しています。
家の前の小川にボタルを復活させる取組みをしながら遊んでいます。

河合忠勝先生

(昭和46年4月～昭和57年3月・図画工作)
元氣で過ごしております。腰痛の為、欠席します。

成瀬澄子先生

(昭和47年4月～昭和49年3月・音楽)
皆様の益々の御活躍、御発展を願っております。

大橋光雄先生

(昭和48年4月～平成7年3月・社会)
70歳過ぎ。医師の指導もあり、食生活の改善に取り組んでいます。今までのようになどを好きに食べるのでなく、量と質をついた結果、体重が11～12kg減りました。体が樂にならました。年中「食べたい」という欲求と闘っています。

中田智己先生

(昭和56年4月～平成10年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

山田良則先生

(昭和56年4月～平成2年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

坂元健一先生

(昭和56年4月～昭和60年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

大西秀彦先生

(昭和55年4月～昭和58年3月・理科)
天王寺附小に勤務していましたことを懐かしく思い出しております。短期間ではあります。東京に出て36年が過ぎました。元気にしております。

西守玲子先生
(昭和54年4月～昭和56年3月・音楽)
附小の益々の発展と先生方の活躍、心よりお祈り申上げます。

齊原博正先生
(昭和55年4月～平成9年3月・体育)
ご盛会をお祈りします。

川村一郎先生
(昭和45年4月～昭和57年3月・体育)
鷹犬相聞囃。それにつられてわが家の老夫も遠吠えする。静かでねたやか。のんびりと暮らしています。会のお世話、ご苦労さんです。

成瀬修先生

(昭和45年4月～昭和47年3月・音楽)
益々の御発展を願っています。

山下良一先生

(昭和46年4月～昭和54年3月・算数)
78歳にならましたが、幸いに元気です。
海外在住の子どもの支援分野はご縁を持続しています。
家の前の小川にボタルを復活させる取組みをしながら遊んでいます。

河合忠勝先生

(昭和46年4月～昭和57年3月・図画工作)
元氣で過ごしております。腰痛の為、欠席します。

成瀬澄子先生

(昭和47年4月～昭和49年3月・音楽)
皆様の益々の御活躍、御発展を願っております。

大橋光雄先生

(昭和48年4月～平成7年3月・社会)
70歳過ぎ。医師の指導もあり、食生活の改善に取り組んでいます。今までのようになどを好きに食べるのでなく、量と質をついた結果、体重が11～12kg減りました。体が樂にならました。年中「食べたい」という欲求と闘っています。

中田智己先生

(昭和56年4月～平成10年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

山田良則先生

(昭和56年4月～平成2年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

坂元健一先生

(昭和56年4月～昭和60年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

大西秀彦先生

(昭和55年4月～昭和58年3月・理科)
天王寺附小に勤務していましたことを懐かしく思い出しております。短期間ではあります。東京に出て36年が過ぎました。元気にしております。

西守玲子先生
(昭和54年4月～昭和56年3月・音楽)
附小の益々の発展と先生方の活躍、心よりお祈り申上げます。

齊原博正先生
(昭和55年4月～平成9年3月・体育)
ご盛会をお祈りします。

川村一郎先生
(昭和45年4月～昭和57年3月・体育)
鷹犬相聞囃。それにつられてわが家の老夫も遠吠えする。静かでねたやか。のんびりと暮らしています。会のお世話、ご苦労さんです。

成瀬修先生

(昭和45年4月～昭和47年3月・音楽)
益々の御発展を願っています。

山下良一先生

(昭和46年4月～昭和54年3月・算数)
78歳にならましたが、幸いに元気です。
海外在住の子どもの支援分野はご縁を持続しています。
家の前の小川にボタルを復活させる取組みをしながら遊んでいます。

河合忠勝先生

(昭和46年4月～昭和57年3月・図画工作)
元氣で過ごしております。腰痛の為、欠席します。

成瀬澄子先生

(昭和47年4月～昭和49年3月・音楽)
皆様の益々の御活躍、御発展を願っております。

大橋光雄先生

(昭和48年4月～平成7年3月・社会)
70歳過ぎ。医師の指導もあり、食生活の改善に取り組んでいます。今までのようになどを好きに食べるのでなく、量と質をついた結果、体重が11～12kg減りました。体が樂にならました。年中「食べたい」という欲求と闘っています。

中田智己先生

(昭和56年4月～平成10年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

山田良則先生

(昭和56年4月～平成2年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

坂元健一先生

(昭和56年4月～昭和60年3月・算数)
ご案内ありがとうございます。
ご盛会をお祈りいたします。

大西秀彦先生

(昭和55年4月～昭和58年3月・理科)
天王寺附小に勤務していましたことを懐かしく思い出しております。短期間ではあります。東京に出て36年が過ぎました。元気にしております。

西守玲子先生
(昭和54年4月～昭和56年3月・音楽)
附小の益々の発展と先生方の活躍、心よりお祈り申上げます。

齊原博正先生
(昭和55年4月～平成9年3月・体育)
ご盛会をお祈りします。

川村一郎先生
(昭和45年4月～昭和57年3月・体育)
鷹犬相聞囃。それにつられてわが家の老夫も遠吠えする。静かでねたやか。のんびりと暮らしています。会のお世話、ご苦労さんです。

成瀬修先生

(昭和45年4月～昭和47年3月・音楽)
益々の御発展を願っています。

山下良一先生

(昭和46年4月～昭和54年3月・算数)
78歳にならましたが、幸いに元気です。
海外在住の子どもの支援分野はご縁を持続しています。
家の前の小川にボタルを復活させる取組みをしながら遊んでいます。

河合忠勝先生

(昭和46年4月～昭和57年3月・図画工作)
元氣で過ごしております。腰痛の為、欠席します。

成瀬澄子先生

(

級友から・の

近況報告 告

エ・ト・セ・ト・ラ

昨年寄せられた近況報告の中から掲載しています。年に1度の会報発行ですので、タイムリーに報告出来ないのが残念です。

(11)

- 59期(昭和15年卒) 岩山久子(旧姓石田)
阪大病院局から始まり、東京・本草堂ラグスアで、薬剤師勤務を今回卒業しました。でも余韻が残っています。
- 60期(昭和18年卒) 伊藤欣一
平成28年4月27日より長男に事業継承により、整形外科(肩専門)クリニックとなりました。従って院長は長男伊藤陽一になっています。
- 61期(昭和19年卒) 尾形丈一
86歳まだ健在で頑張っています。
- 62期(昭和18年卒) 伊藤欣一
平成28年4月27日より長男に事業継承により、整形外科(肩専門)クリニックとなりました。従って院長は長男伊藤陽一になっています。
- 63期(昭和19年卒) 大井令子(旧姓荒木)
思い出ばかりの小学校時代終戦後過ごしました。故郷は昔の上町線でアベノ百貨店の所を通い、通学路といわれる何本も線路上を渡り、時にお相撲さんにも出合いました。入学時、1日目は父に付き添われ、2日目からは一人で必死に通ったものです。但し父はさうその後に歩いてついてきてくれています。
- 64期(昭和20年卒) 小川純子(旧姓横山)
同期の皆様、如何お過ごしくらいわっしゃいますか?おつかしく思い出しております。
- 65期(昭和21年卒) 小川やす子(旧姓刀年)
日頃は色々とお世話に成りまして、厚く御礼申し上げます。年齢は重ねましたが、附小時代を懐かしく思っております。
- 66期(昭和21年卒) 森口久子
堺市南区厚山台2-1-1梅センター内の3Fで眼科を開業していましたが閉院しました。今は校医で校門にて検診しています。
- 67期(昭和27年卒) 駒井宏
名古屋で開業して8年間、その後安曇野に移住して8年目です。昨年平成29年より、駒井沢近くの市立病院で、地区医療に貢献して居ります。生活環境も都合の雑踏を忘れて済んでいます。
- 68期(昭和27年卒) 寺尾邦彦
私は戦後2年間附小でお世話になった者です。(昭和27年卒)
その後、父親の転勤に伴い東京に移り、中学、高校は東京教育大学現筑波和27年卒) 131期(平成24年卒) 大田潤之助
江戸時代、堀川(大阪市)の両岸に「蔵敷」を建てた西日本諸藩は、蔵敷の前に自慢の松を植えた。
広島藩蔵敷(同市北区)の松は枝ぶらが泳ぐように似たことから「舞の松」と綴じられています。一方は黒扇で飾った粉を足で踏んでお仕事に行く。想像天外され、落語ならではだ。
- 69期(昭和27年卒) 尾形丈一
86歳まだ健在で頑張っています。
- 70期(昭和27年卒) 小川やす子(旧姓刀年)
日頃は色々とお世話に成りまして、厚く御礼申し上げます。年齢は重ねましたが、附小時代を懐かしく思っております。
- 71期(昭和27年卒) 後藤忠彦
母校創立百四十年記念の『難松』を見た時をしておりまます。会誌「難松」を楽しく拝読しております。また、本用紙に拝入住所氏名を印字して下さりありがとうございます。
- 72期(昭和31年卒) 森口久子
堺市南区厚山台2-1-1梅センターの3Fで眼科を開業していましたが閉院しました。今は校医で校門にて検診しています。
- 73期(昭和41年卒) 駒井宏
名古屋で開業して8年間、その後安曇野に移住して8年目です。昨年平成29年より、駒井沢近くの市立病院で、地区医療に貢献して居ります。生活環境も都合の雑踏を忘れて済んでいます。
- 74期(昭和41年卒) 大田潤之助
江戸時代、堀川(大阪市)の両岸に「蔵敷」を建てた西日本諸藩は、蔵敷の前に自慢の松を植えた。
広島藩蔵敷(同市北区)の松は枝ぶらが泳ぐように似たことから「舞の松」と綴じられています。一方は黒扇で飾った粉を足で踏んでお仕事に行く。想像天外され、落語ならではだ。
- 75期(昭和31年卒) 森口久子
堺市南区厚山台2-1-1梅センターの3Fで眼科を開業していましたが閉院しました。今は校医で校門にて検診しています。
- 76期(平成17年卒) 中村仁美
大阪府立慈生総合医療センターに勤務しております。
- 77期(平成24年卒) 大田潤之助
江戸時代、堀川(大阪市)の両岸に「蔵敷」を建てた西日本諸藩は、蔵敷の前に自慢の松を植えた。
広島藩蔵敷(同市北区)の松は枝ぶらが泳ぐように似たことから「舞の松」と綴じられています。一方は黒扇で飾った粉を足で踏んでお仕事に行く。想像天外され、落語ならではだ。
- 78期(平成24年卒) 大田潤之助
江戸時代、堀川(大阪市)の両岸に「蔵敷」を建てた西日本諸藩は、蔵敷の前に自慢の松を植えた。
広島藩蔵敷(同市北区)の松は枝ぶらが泳ぐように似たことから「舞の松」と綴じられています。一方は黒扇で飾った粉を足で踏んでお仕事に行く。想像天外され、落語ならではだ。
- 79期(平成24年卒) 大田潤之助
江戸時代、堀川(大阪市)の両岸に「蔵敷」を建てた西日本諸藩は、蔵敷の前に自慢の松を植えた。
広島藩蔵敷(同市北区)の松は枝ぶらが泳ぐように似たことから「舞の松」と綴じられています。一方は黒扇で飾った粉を足で踏んでお仕事に行く。想像天外され、落語ならではだ。
- 80期(平成24年卒) 大田潤之助
江戸時代、堀川(大阪市)の両岸に「蔵敷」を建てた西日本諸藩は、蔵敷の前に自慢の松を植えた。
広島藩蔵敷(同市北区)の松は枝ぶらが泳ぐように似たことから「舞の松」と綴じられています。一方は黒扇で飾った粉を足で踏んでお仕事に行く。想像天外され、落語ならではだ。
- 81期(平成24年卒) 大田潤之助
江戸時代、堀川(大阪市)の両岸に「蔵敷」を建てた西日本諸藩は、蔵敷の前に自慢の松を植えた。
広島藩蔵敷(同市北区)の松は枝ぶらが泳ぐように似たことから「舞の松」と綴じられています。一方は黒扇で飾った粉を足で踏んでお仕事に行く。想像天外され、落語ならではだ。
- 82期(昭和38年卒) 日野和輝
「平成最後の…」最近よく見かけるキャッチフレーズになっていましたが…、真正銘の「附小卒生 平成最後の同期会」が平成31年2月9日に新阪急ホテルで開催されました。当時はあいの風とやまとで、東京組は少し苦労された様ですが、善男善女28名が無事集合出来ました。司会役の桃田くんの進行で、必ず特別ゲストの辻本戊先生のご挨拶と乾杯の音頭。今年米寿を迎えるとは思えない元気とユーモア溢れる辻本節での幕が上がりました。
- 83期(昭和53年卒) 江村成就
太陽とは疎遠にならぬと共に高齢の為体調を崩し療養中ですので退会させて頂きました。141周年に向けての益々のご発展を祈念いたします。乱筆お許しください。
- 84期(昭和53年卒) 江村成就
大阪鉄道病院に勤務して10年になります。外来の窓を開けると聞こえて来る車の声、下校時刻に流れる校歌…変わらぬところ伝統を感じつゝ日々樂しませてもらっています。



おひさしぶり～

平成最後の…

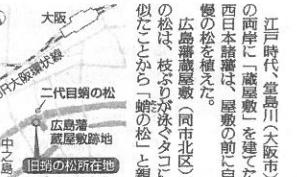
おひさしぶり～

「平成最後の同期会」日野 和輝

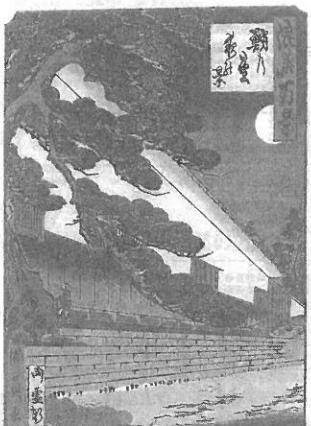
付属小同窓会「難松会」の名で残り、「一世紀の時を越した200年、同窓会の手で対岸に二代目」が植えられました。辻本は府師範学校付属演習小(現大阪教育大付属天王寺小)の校地になった。松は誰も会員間の芦本光生さん(元は同窓生)で、辻本は心の支えといいます。会員が集って周囲を掃き清め、ふたたびタコのよつと育つのを見守っている。

大阪面影さがし

⑥ 蛇の松



1世紀経て「二代目」



「蛇の松」は豊島川の川面にタコの足のように枝をのばした(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)



2018年05月19日 読売大阪 朝刊 大阪2 13S版29頁

